

平成21年度第1回後見的支援推進プロジェクト会議録	
日 時	平成21年5月15日（金）午後2時～4時
開催場所	関内駅前第二ビル 2階特別会議室
出席者 (敬称略)	委員 八島 敏昭、坂田 信子、川島 志保、瀧澤 久美子、阪野 圭二、深井 浩治、和田 千珠子 事務局 松田 米生、大山 弘三、高木 美岐、國分 忠博、大木 克之、鈴木 和男、岡ノ谷 雅之、小池 美恵子
欠席者	金子 恵子
開催形態	公開（傍聴者0人）
議 題	1 プロジェクト趣旨説明 2 地域に暮らす障害者にとっての「あんしん」とは
議 事	1 プロジェクト趣旨説明 <ul style="list-style-type: none"> ・ プロジェクトは10月まで月1回のペースで行う。 ・ 2か月に1回ある障害者施策検討部会で、プロジェクトの検討内容をプロジェクトリーダーから報告していただく。 ・ 本プロジェクトは、横浜市障害者プラン（第2期）第二章「将来にわたるあんしん施策」の中の、「親亡き後も安心して地域生活がおくれる仕組の構築」の中にある「後見的支援の充実」を話し合うためのプロジェクトである。 2 地域に暮らす障害者にとっての「あんしん」とは <p>本日は、「地域に暮らす障害者にとっての『あんしん』とは」というテーマでお話をいただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ご本人やご家族には、「どんなに障害が重くても、地域でくらしたい」という願いがある。養護学校が義務化になり、学校で過ごして、作業所を作り、そこへ通っている。しかし、グループホームの整備が弱い。就労している方の中にも、「一人暮らしはちょっと難しいが、グループホームがあれば」と思っても、どこに相談に行けばよいか分からないという方がいる。将来に対する不安というのは、この「暮らす場」の部分がかなり大きいと思う。 ・ ご家族にとってはお金の問題よりは身上監護の問題。やはり、誰がどうやってそこを支えてくれるのかということも不安なところ。小さな時からずっとその方をわかっている、そういう支援の仕組みをつくるのが大事。 ・ 成人期の余暇や性の問題も大きい。また、その教育やサポートについても大きな問題。 ・ 障害児者の家族支援についても大事。今は親御さんが元気であることを前提とした福祉サービスの利用の仕方だが、その前提が崩れてしまったとき

にキーパーソンになる人がそこにいないとサービスにつなぎようがない。

- ・ 発達障害児の課題も大きい。(福祉サービスが入りにくい方が多くなっている。)
- ・ 利用するご家族に寄り添って支援するための支援組織が弱い。相談先はたくさんできてきているにも関わらず、どこにどうやって相談にいったらいいのかということが、なかなかわかりにくい。
- ・ 学齢期でいうと子どもの育ちの支援が足りない。大学生が卒論で行った調査の中に、「何が一番不安ですか」というのに、「子どもと向き合いたいが、向き合える支援がない」という感じのアンケート結果があった。やはり子どもが小さいときは、とても大変だけれども、子どもにどう関わっていいかわからない。家の中で自分の子とどう暮らしていくのかというところの支援がなかなかない。お母さんと子どもの関係をどうつくっていくのかという支援の部分は、やはり弱いと感じている。
- ・ 成年後見制度は「いらぬ」という親御さんほど必要。本人の人生を親御さんが決めているわけなので。成年後見は、本人の人生を本人が決めるにはどうしたらいいかという仕掛けの問題。
- ・ 親御さんにお話するときには、「まず親御さん、心配だったらなってみたらどうですか」という話をするが、親御さんがベストとは考えていない。成年後見は一生続くが、親が先に死んでしまうため。ただ親御さんはすごく心配だから、まず自分でやってみて、「こういうものなら人に頼めるな」というふうにして、誰かに頼んでいけばいいではないかという話はする。
- ・ 障害のある方の場合には、むしろ権利擁護というのか、その人が自分の望む人生をどうやって実現できるかというところで、きちんとした支援ができなければ成年後見人にならない。
- ・ 親がずっと NPO で法人後見をやっているというのは、やはり本人にとって必ずしも幸せではないのではなかろうかという気がしているので、その辺の仕組みはつくっていかなければいけない。
- ・ 成年後見人として活動する場合に、必ず福祉とネットワークを組むというのは大事なこと。
- ・ 親亡き後の安心は福祉だけではなく、医療とも関係があるけれども、法律的な問題というものが必ず後ろにあるのではないか。
- ・ 親の会で、成年後見の問題を取り上げて、15年ぐらいになる。出発はやはり、親亡き後の漠然とした不安。
- ・ 今、親が本人を支援している。親は死んでしまうので、誰かに引き継がないといけないということが、根底にある。
- ・ 親の会の会員向けのアンケートの「いわゆる後見人に、親として何を期待しますか」という問いに対して1番多かった答えは「後見人に本人の生活実態を把握してもらいたい」。2番目に「本人と頻りに接触して、見守り、声かけをしてほしい」。これらが圧倒的に1位・2位。3番目によくいわゆる「権利擁護」である「契約をしているサービスの内容をチェックし

てほしい」など。それから5番目辺りに「財産管理をきちんとしてほしい」が出てくる。

- ・ 法人であろうが何であろうが、後見人だけで全てまかなえるわけではなくて、そこで見守っている人、福祉の現場の人、地域の人も含めて、子どものことを見守っていくようなシステムがどうしても必要だということがわかってきたというのが、現在の状況。
- ・ 彼らの抱えている将来の課題というのは、一緒に生きるということだけでなく、一緒に生活をしてみないとわからない。
- ・ 2年ほど前に、親たちが相談するところはあるけれども、気軽に家族に寄り添った相談をしてくれるところが少ないということがあり、親たちが集まってNPOを立ち上げた。親たちが気軽に相談できる、家族と寄り添って、家族の立場に立った考え方で、いろいろな相談に乗ってくれる人を育成しようという目的。ピアサポーターを育成することが中心で活動している。
- ・ 親亡き後の安心というと、やはり本人の障害にあった支援がずっとしていただけること、親がいなくなっても、そのままの生活が続けられること。
- ・ 作業所に通えなくなっても、グループホームで1日過ごせるようなシステムがきちんと整備されていること。
- ・ 夜、安心して行けるような、各区にある生活支援センターの夜バージョンがあればいいのかな、などということを考えている。
- ・ 生活支援センターが地域に根付いた小さくてもいいから歩いて行ける、またはタクシーでもワンメーターくらいでいける距離のところがあるとよい。
- ・ 生活支援センターでは対応しきれないマンパワー不足をどこに援助を求めたらいいのかというのが大きな課題。
- ・ お母さんが病気で子どもを家から送り出すことができないと、子どもが学校に行けなくなる。その支援をどうやって組むかというのがなかなか難しい。
- ・ 相談する普段のところでは、弁護士さんと距離はやはり遠い。
- ・ 公的機関などの緊急体制がとても弱い。
- ・ 機関に対して動くときに、権限がないと動けないという問題を抱えることがある。相手に邪魔だといわれぬ程度の支援をしながらやっているところもたくさんある。
- ・ 組織としての24時間安心の部分もあるとよい。
- ・ 福祉の方から「なかなか弁護士に届かない」という声があるが、弁護士もなかなか福祉の関係者に届かず手探りでやっている。
- ・ あんしんセンターは、協力弁護士チームという4人の弁護士さんに協力していただいている。障害関係の弁護士チームがあるとよい。
- ・ 中度から軽度の障害の方は、ご家族もよくわかっていないのと、福祉の手が全然入っていないというところがある。問題が初めて生じて、「どうしましょう」という感じになる可能性は高い。

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもが小さいときからどんな暮らしをしていたか、親の安心の記録みたいなもの、例えばどこの病院にかかっているなどを、親が書いておく。 ・ お子さんが 20 歳になって、30 歳ぐらいまでにできればグループホームで暮らすなど、一度外へ出てみる暮らしをしてみる。親が本当は 60 歳でもいいけれども、70 歳になったら、そこは後見を考える時期など、ある程度目安をつくるとよいと思う。 ・ 「できればこの時期にこうするといいですよ。たとえばこういう例がありましたよ」というようなものがあると、きっと目安になるかなと思う。 ・ 自分たちの仲間、当事者で 20 時～23 時に、「相談はできないけれども、人の声を聞くという井戸端会議みたいなことならできるよ」という「ふくろう電話」を実施している。 ・ 障害のある方の、たとえば収入を支える人もいるかも知れないし、本当の住まいの部分の人もいるかもしれない。それから日中活動、就労など、そういう方たちがそれぞれ違うのであれば、何かあったときにその方たちがパッと集まってくれればすごくいい。 ・ ネットワークというのは、固定したものではなく、その方の置かれている状況で、時には包括だったり、時にはワーカーさんだったりする。 ・ その地域で取り巻く人たちというのが大事 ・ 民生委員や児童委員さん、それから近所ですっと付き合っている方たちから「この子は小さいときはこうだったんだ」みたいなお話を聞いている。近所の方が入るといっても、ネットワークの中にはどうしても必要。
<p>資 料</p> <p>・</p> <p>特記事項</p>	<p>1 資料</p> <p>(1) 資料1 プロジェクト説明資料（部会配布資料）</p> <p>(2) 資料2 今後のスケジュール</p> <p>(3) 資料3 障害者プラン第2期 抜粋</p> <p>(4) 資料4 委員、事務局名簿</p> <p>2 特記事項</p> <p>今回は、6月19日（金）に開催予定。</p> <p>開催場所 横浜市研修センター604.605号室</p>